峰山学園保幼小中一貫教育だより

【　令和6年9月号　】

発行：峰山学園事務局　　連絡先：0772-62-0359　　FAX：0772-62-7987

峰山学園保幼小中一貫教育のページ

峰 山 学 園 教 育 目 標：ふるさとを愛し、多様な人とつながりながら学び、探究し続ける子どもの育成
峰山学園目指す子ども像：◇ 主体的に学び続ける子ども　◇ 人を思いやり仲間と共に高め合える子ども
◇ 粘り強く挑戦し続ける子ども

2学期が始まりました！実り多き学期に向けて

8月27日（火）に小学校、中学校の第2学期の始業式が行われ、元気な児童生徒の声が校舎に響き渡り、活気が学校に戻ってきました。こども園では、7・8月と通常の園生活が展開されており、猛暑と言われた厳しい暑さの中でしたが、水遊び、制作活動等を中心に子ども達は園生活をたくましく過ごしました。

残暑厳しい毎日は続いていますが、子ども達は気持ちも新たに2学期の学習に意欲的に取り組んでいます。それぞれの学校ではICTを活用した授業も当たり前の光景として定着してきました。

峰山小学校

いさなご小学校

しんざん小学校

長岡小学校

多様な授業展開が可能に

・児童は自分の考えをクラウド上の提出ボックスに入れます。教師は内容を把握し、**授業の流れに反映**させていきます。
・考えを隣同士、グループで交流したり全体で確かめたりします。**タブレットからは多くの情報を得ることができ**、自分の**考えを確立していく手助け**になります。

峰山中学校

ICTを活用し“子ども達につけたい力は何か”を、それぞれの発達段階に応じて追究し工夫しながら、授業が展開されています。児童生徒の『主体的な学び』『協働的な学び』を目指しています。

峰山学園「夏季研修会」を行いました

８月22日（木）に峰山学園の子ども園、小中学校の教職員が一堂に会し「夏季研修会」を開催。午前中は小中学校の教職員が、ゆうかり子ども園・峰山こども園を参観しました。

ゆうかり子ども園

制作活動を楽しむ様子を参観しました。「かき氷」を作るために材料を選び思い思いに活動します。何を選びどのように作るか、“自分で決める”ということは成長段階で大事なステップとなります。

峰山こども園

部屋の前の自由スペースには様々なコーナーが設置されています。昆虫、ピタゴラス、ままごと、折り紙、制作等々、子ども達は各コーナーで友達と楽しく遊びを展開していました。

全体会の基調提案で

ゆうかり子ども園：奥野先生

＊全体会の基調報告では峰山中学校から「峰山中学校の授業づくりの取組」について、生徒同士の繋がりを大切にした「複線型授業」や「協働的な学び」、コミュニケーション能力や繋がる力の育成を意識した教育活動等、実践例を示しながらの報告がありました。

＊ゆうかり子ども園からは「子どもの主体性を育む保育」について、みんなの顔が見えるように丸くなっての活動や話し合いを進める「サークルタイム」の実践事例を中心とした報告がありました。

峰山中学校：平林先生
桑原先生

講演「主体的・対話的で深い『子どもの学び』を教室で実現するために」と題して

福地淳宏教授

岐阜聖徳学園大学　福地淳宏教授にお世話になりました。峰山学園の保幼小中一貫教育のこれまでの成果と課題を踏まえた上で、新たな歩みを進めようとしている峰山学園の「教育目標」、「目指す子ども像」の具現化に向け、子ども達につけていきたい力を育むための授業づくりについてご講演いただきました。

理論だけでなく、先進校の授業風景の動画もたくさん紹介していただき、具体的なイメージをもつことができました。子ども達を中心に置き、端末機器を活用し『子ども達が繋がる授業』の実現に向けて、また各教科等の学びの深まりの鍵となる「見方・考え方」を育むことが、子ども達のその後の学習や人生において、その力を働かせることに繋がることなどをご示唆いただき、学び多き講演となりました。

グループ交流では

夏季研修会の感想を交流し合いました。こども園の参観を通じて学んだこと、全体会の基調報告や講演を聞いて学んだことや印象に残ったこと、日頃の実践と併せて交流しました。

園・小・中の教員がそれぞれの立場から「今後に生かしていきたいこと」、「今感じている課題」、「本日の学び」と絡めてそれぞれの思いを出し合いました。どのグループも活発な論議が繰り広げられました。「こども園、小学校、中学校と、発達段階の違いはあるものの、目指していく姿、大事にしたい方向性は同じだ、と確認し合うことができた。」との感想も多く、実り多い研修会となったことが窺えました。